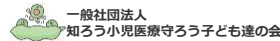


## 東京都 小児医療協議会

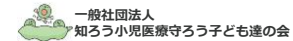
当会の取り組みおよび厚生労働省

「上手な医療のかかり方を広めるための懇談会」での議論と「いのちをまもり、医療をまもる国民プロジェクト」宣言について

一般社団法人知ろう小児医療守ろう子ども達の会  
代表理事 阿真京子



## 上手な医療のかかり方を広めるための懇談会



病気を習う機会がない！

抱っこも初めて・・・

母親学級・乳児健診で親が知っていて  
当然の子どもの病気を  
知る機会もないまま、親になる



軽症・重症だからではなく、  
心配だから受診



知ることが大切！



## 活動 3つの柱

### ①乳幼児の保護者へ

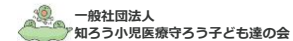
子どもの病気を学ぶ講座を開催  
メルマガ(子どもの病気やコラム)を毎月配信

### ②自治体への働きかけ

両親学級、乳児健診での勉強会と、小冊子の配布を提案

### ③よりよい医療環境をめざして

小児医療の厳しい現状の改善にむけ、勉強と働きかけ



### 父母にむけて子どもの病気を学ぶ講座を開催



一般社団法人 知ろう小児医療守ろう子ども達の会

### 小児科医から父母へ「講座でお伝えしていること」

- 救急にかかるべきとき  
※必要は時はすぐに救急へ
- 子どもの病気とその対処法 (熱・咳・下痢・嘔吐)  
※そして、家で様子を見てよい時を知る
- 予防接種について
- 地域の医療の現状

子どもが夜間、病気のとき落ち着いて親が家でみていられるようになることで、子ども親も先生も夜はゆっくり休むことができるように・・・

一般社団法人 知ろう小児医療守ろう子ども達の会

### 続けた活動・実績

活動年数 12年  
講座開催 150回  
受講者数 5000人



一般社団法人 知ろう小児医療守ろう子ども達の会

### 受講者の声


心配がないと思われる症状のときは  
**休日や夜間に駆け込むのではなく、翌日、かかりつけ医にみてもらうまで家で様子を見ようと思った。**

一般社団法人 知ろう小児医療守ろう子ども達の会

**受講者の声**

子どもがかかる病気、対処法を  
教えてもらい**心の準備ができた。**


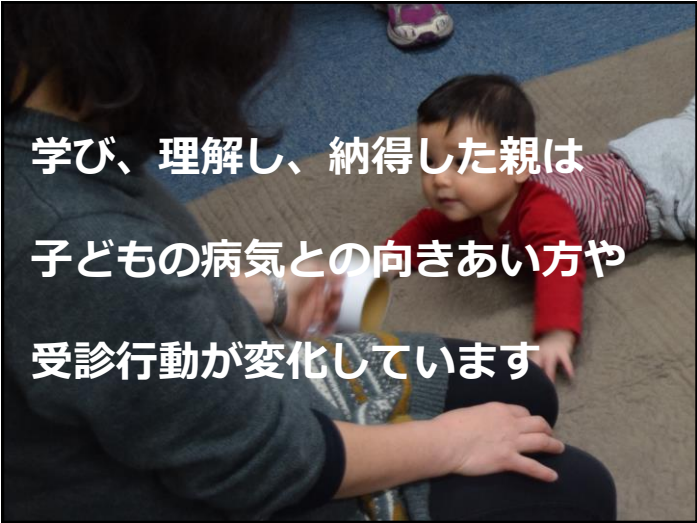
**様子を見ることの大事さ**がわかった。



**受講者の声**


**医者任せにしていたことを反省します。**

**長い目で見て医療全体に必要な話**だと思いました。

**本当に 伝えていきますか？**

- ある県のシンポジウム  
深刻な医療環境、過酷な労働環境  
行政、医療者⇒市民への不満  
「夜に軽症者がたくさん来て困る・・・」
- 「もう、疲れました。」  
毎日100人の患者、次々と生まれる・・・



道徳ではない 科学的な裏付けのあること

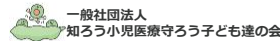
と  
 ・非難したい？ 責めたい？

⇒NO!!!

耳をふさいでしまう・・・

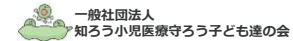
良心に訴えかけない 善意に頼らない

- × 救急車は本当に必要な人のために
  - 救急車の到着は平均8.7分です。
- こういう時に、救急車を使ってください。



大切なポイント

あなたの命を守るため



責めない

知らないことは、悪ではない ⇒大多数の関心

(例) 予防接種 効果と副反応  
 定期化され、水疱瘡や細菌性髄膜炎激減  
 「事実を伝える」



どんなボールなら受け取れる？

具体的に何をすべきか、何に注意をすればよいか。  
 例：巨峰などのつるっとして丸いものは、注意。

- 巨峰は、小さく切って与えよう。
- × 小さくて丸いものに、注意！

わかりやすく!!!



お金のかかる

啓発、とは大きいことを一度やっておしまい、  
ではない

お金はかからない。けれど、手間はかかります。  
定期的に、継続的に、繰り返し、繰り返し・・・

持続的に伝えられるよう仕組みを変えていく



同じエネルギーをかけていますか？

「作っておしまい」ではない！  
作るまでの労力＝作ってからの労力

ひとに届いて初めて、作った！ある区の実例

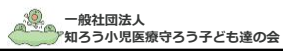
良いツールは、たくさんあります！！



我が子を真剣に思う姿勢を力に、  
心配が怒りに変わらぬように・・・

- 信頼できる医療者の支えが、子育てを楽にする
- 医療にゆとりがあることで、子育てにゆとりが生まれる
- ゆとりのあるところに、優しさがうまれる

希望にあふれたまぶしい存在である親子  
を温かく見守る輪

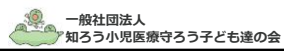


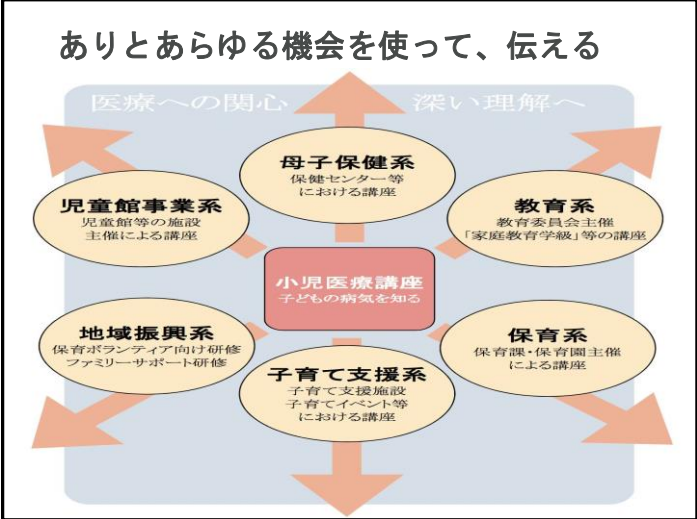
活動を通して・・・  
どこか一方からの努力ではダメ

医療者、国、行政、企業、  
メディア、市民

ありとあらゆる協力で

本音で話すことで道は拓けます





**課題**

- 自治体で！
- ⇒やってます！！

【自治体向け】  
医療のかかり方講座 実例マニュアル  
小児医療を入口として  
高齢化社会を支える医療の礎を築くために

一般社団法人 知ろう小児医療守ろう子ども達の会

- 一方、伝えたい保健師さん達
- 全国どこでも当たり前になるようにするために・・・

一般社団法人 知ろう小児医療守ろう子ども達の会

一般のかたに医療をお伝えするのに、  
もっとも効果的な時期とは・・・？

一般社団法人 知ろう小児医療守ろう子ども達の会

小児医療を知ることが、  
高齢化社会の礎を築く

一般社団法人 知ろう小児医療守ろう子ども達の会

**(参考)時間外に医療にかかる層の分析**

○ 時間外においては、他の世代と比較して、児童がより医療にかかる傾向にある。

男女別 救急出動数 算定回数/人口(千人) (1ヵ月平均)

(参考)男女別 時間内診療 算定回数/人口(千人) (1ヵ月平均)

出典 第3回NHKアンケート(平成28年度診療分)人口推計(平成28年10月1日現在人口)

上手な医療のかかり方を広めるための懇談会 参考資料より

一般社団法人 知ろう小児医療守ろう子ども達の会

3) 年齢区分別の搬送人員数

平成29年中の救急自動車による搬送人員数の内訳を年齢区分別にみると、高齢者が321万6,821人(57.2%)、成人が191万9,484人(34.1%)、乳幼児が27万9,919人(4.8%)などとなっている(表7参照)。

年齢区分別の搬送人員数の推移をみると、高齢者の搬送割合は年々増加している(図9参照)。

表7 年齢区分別の搬送人員数対前年比

	平成28年中	平成29年中	対前年比
搬送総数	5,522,119	5,621,119	101.8%
乳幼児	279,919	279,919	100.0%
成人	1,919,484	1,919,484	100.0%
高齢者	3,212,716	3,421,716	106.5%
合計	5,522,119	5,621,119	101.8%

図9 年齢区分別の搬送人員数と構成比の6年ごとの推移

総務省消防庁 平成29年版 救急・救助の現況より

一般社団法人 知ろう小児医療守ろう子ども達の会

**「いのちをまもり、医療をまもる」  
国民プロジェクト宣言！**

第3回「上手な医療のかかり方を広めるための懇談会」  
平成28年12月1日 議決

私たち「上手な医療のかかり方を広めるための懇談会」構成員は、  
病院・診療所にかかるすべての国民と、  
国民の健康を守るために日夜力を尽くす医師・医療従事者のために、  
「いのちをまもり、医療をまもる」ための5つの方策」の実施を提案し、  
これは国民すべてが関わるべきプロジェクトであることを、ここに宣言します。

一般社団法人 知ろう小児医療守ろう子ども達の会

特に、医療の危機と現場崩壊は深刻で、「いのちをまもること」「医療をまもること」は日本にとって喫緊の課題です。これは、国、自治体、医療提供者、民間企業、市民社会などをはじめ、医療の恩恵を被る「すべての人」が考え、参加し、行動すべき、国民的プロジェクトだと我々は考えています。

「いのちをまもり、医療をまもる」国民プロジェクト5つの方策

- ① 患者・家族の不安を解消する取組を最優先で実施すること
- ② 医療の現場が危機である現状を国民に広く共有すること
- ③ 緊急時の相談電話やサイトを導入・周知・活用すること
- ④ 信頼できる医療情報を見やすくまとめて提供すること
- ⑤ チーム医療を徹底し、患者・家族の相談体制を確立すること

私たち「上手な医療のかかり方を広めるための懇談会」構成員は、この5つの方策を国が速やかに具体的施策として実行し、すべての関係者の取り組みが前進するよう、来年度以降も継続的にコミットし、進捗をチェックし続けます。

一般社団法人 知ろう小児医療守ろう子ども達の会



まず、日本において「医師は、全職種中、最も労働時間が長い」という現実を知ってください。

また、日本の医師の「3.6%が自殺や死を毎週または毎日考える」(※1)こと、「6.5%が抑うつ中等度以上」であること、「半数近くが睡眠時間が足りない」こと。

そして、「76.9%がヒヤリ・ハットを体験している」ことなども知ってください。

**こういう現実を放っておくと、確実に医療の現場は崩壊します。**

通勤時間以上労働の割合 (%)

勤務先1万人アンケート (n=427年度)

項目	割合 (%)
最近1ヶ月間で休みなし	5.9
平均残業時間8時間未満	9.1
残業日や半日残業経験4時間以上	39.3
不健康・健康でない	20.1
医師や患者も健康な日は毎日考える	3.6
抑うつ中等度以上	6.5

ヒヤリ・ハット体験の割合 (%)

※1 米国内務省では、男性医師の自殺率は一般職員の4倍、女性医師では一般職員の2倍であることが示されている。(Schonhammer ES, Gostly GA. Am J Psychiatry 2004;161:2295-2302)

上手な医療のかかり方を広めるための懇談会  
参考資料より

一般社団法人 知ろう小児医療守ろう子ども達の会

「医療危機」は国民全員が考え、取り組むべき重要な問題です

**市民側の要因**

- 医師の意見だけを信頼し、些細なことでも「とにかく医師に聞こう」と思ってしまう
- 軽症重症に関わらず、大病院で受診して安心を得ようとしてしまう
- 緊急かどうか判断せずに、救急車を利用してしまふ

**「医療危機」  
4つの要因**

**行政側の要因**

- 国民や現場医師の声が反映されにくい診療報酬・政策決定プロセスやメンバー構成などの問題を放置している
- 必要な情報が必要な人に提供・伝達できていない
- 形式的でインパクトに乏しい施策を実行している

**医師/医療提供者側の要因**

- 「医師が一番」という構造・意識が蔓延している
- 医師が全てを担うべきと、医師自身が思い込んでいる
- 男性を中心とした働き方や慣習がはびこり、限られた人材で業務を回さざるを得なくなっている

**民間企業側の要因**

- 従業員が体調が悪い時に休んでいない(休めない)ことが、緊急でない夜間・休日受診の一因になっていることを理解していない
- 健診のデータが効果的に活用されていない
- 健康投資はコストにすぎないという意識がある

～医療を取り巻く社会経済状況～

- 厳しい財政状況
- 疾病構造やニーズの変化・多様化
- 医療需要が増える中での働き手の減少
- 予防努力が評価されない制度

上手な医療のかかり方を広めるための懇談会  
参考資料より

一般社団法人 知ろう小児医療守ろう子ども達の会

「いのちをまもり、医療をまもる」ための国民総力戦！  
～それぞれが少しずつ、今すぐできることから～

**市民のアクションの例**

- 患者の様子や症状と違う場合は「信頼できる医療情報サイト」(※1)を参照し、まずは医師を把握する
- 夜間・休日診療や休日急ぎ診療センター(※2)の受付時間や予約状況を確認する
- 夜間・休日診療や休日急ぎ診療センター(※2)の受付時間や予約状況を確認する
- 夜間・休日診療や休日急ぎ診療センター(※2)の受付時間や予約状況を確認する
- 夜間・休日診療や休日急ぎ診療センター(※2)の受付時間や予約状況を確認する

**行政のアクションの例**

- 「いのちをまもり、医療をまもる」国民総力戦を、国民アプリ(ソフト)を構築し、医療・健康情報を提供していく
- 国民総力戦の推進に民間企業と連携し、連携を促していく
- 国民総力戦の推進に民間企業と連携し、連携を促していく
- 国民総力戦の推進に民間企業と連携し、連携を促していく
- 国民総力戦の推進に民間企業と連携し、連携を促していく

**医師/医療提供者のアクションの例**

- あるべき医療の現場のあり方を提供する
- 国民総力戦「医療情報サイト」などの最新情報をチェックして質を保つ
- 国民総力戦「医療情報サイト」などの最新情報をチェックして質を保つ
- 国民総力戦「医療情報サイト」などの最新情報をチェックして質を保つ
- 国民総力戦「医療情報サイト」などの最新情報をチェックして質を保つ

**民間企業のアクションの例**

- 国民総力戦の推進を促すことに取り組む
- 国民総力戦「医療情報サイト」などの最新情報をチェックして質を保つ
- 国民総力戦「医療情報サイト」などの最新情報をチェックして質を保つ
- 国民総力戦「医療情報サイト」などの最新情報をチェックして質を保つ
- 国民総力戦「医療情報サイト」などの最新情報をチェックして質を保つ

※1 現在、様々な情報があふれる中で、どこに正しい情報があるのかを市民は判断できず、「信頼できる医療情報サイト」を早急に作成する必要があります(一歩の方眼)。

※2 国民総力戦では、国民、医師、看護師、薬剤師、理学療法士(PT)、作業療法士(OT)など、様々な専門職の人が集っている。それぞれの専門性を活かし、業務分担しつつ連携・協力し合い、患者の状況に応じた最適な医療やケアを提供することを「チーム医療」と呼ぶ。

※3 患者・家族の期待や要望に対して適切に対応するために支援窓口を設け、適切な職員が対応できる体制を整えることを言う。

上手な医療のかかり方を広めるための懇談会  
参考資料より

一般社団法人 知ろう小児医療守ろう子ども達の会

**市民のアクションの例**

- 患者の様子や症状と違う場合は「信頼できる医療情報サイト」(※1)を活用し、まずは状態を把握する
- 夜間・休日診療を受診したら#8000や#7119の電話相談を利用する
- 夜間・休日診療も、できるだけ日中に受診する
- 日中であれば院内の患者・家族支援窓口(相談窓口)も活用できる
- 夜間・休日診療は、自己負担額が高い、診療時間が短い、処方期間短など、受ける側にもデメリットがある
- 抗生物質はなぜに効かない
- 上手に「チーム医療」(※2)のサポートを受ける
- 日頃の体調管理は看護師に、薬のことは薬剤師に聞くなど、医師ばかりを頼らない

**医師/医療提供者のアクションの例**

- あらゆる機会に医療のあり方を啓発する(待合室、母子健診、小児健診、成人健診、高齢者健診、学校健診、職場健診、公開講座)
- 電話相談や「医療情報サイト」などの最新情報をチェックして質を保つ
- タスクシフト・タスクシェア(業務の移管・共同化)を推進する
- 医療の質を上げ、患者の満足度を上げることにつなげる
- どの医療従事者に相談したらよいかをサポートする患者・家族支援体制(※3)を整える
- 管理者は働き方改革に真摯に取り組み、地域医療の継続にも貢献する
- 医療従事者も患者の安全のため、継続管理に努め、きちんと休憩をとる

※1 現在、様々な情報があふれる中で、どこに正しい情報があるのかを市民は判断できず、「信頼できる医療情報サイト」を早急に作成する必要があります(一歩の方眼)。

※2 国民総力戦では、国民、医師、看護師、薬剤師、理学療法士(PT)、作業療法士(OT)など、様々な専門職の人が集っている。それぞれの専門性を活かし、業務分担しつつ連携・協力し合い、患者の状況に応じた最適な医療やケアを提供することを「チーム医療」と呼ぶ。

※3 患者・家族の期待や要望に対して適切に対応するために支援窓口を設け、適切な職員が対応できる体制を整えることを言う。

上手な医療のかかり方を広めるための懇談会  
参考資料より

一般社団法人 知ろう小児医療守ろう子ども達の会



参考資料 6

**行政のアクションの例**


- 「『いのちをまもり、医療をまもる』国民プロジェクト」を継続・推進し、効果を検証していく
- 医療危機の現状を国民に広く共有し、理解を得ていく
- 「信頼できる医療情報サイト」の認証や支援をする
- #8000や#7119の体制整備を進め、周知を徹底する
- 上手な医療のかり方を直接伝えていく
  - ・保護者が子どもの健康や医療について考えるタイミング（両親学級や乳幼児健診など）での直接講座等の実施を全国の自治体に促す
  - ・「高齢者/高齢者に携わる人たち」に、大人の医療のかり方が伝わるよう、介護施設や消防機関などへ協力を呼びかける
  - ・学校教育等で若いうちに理解を促す
- 医療機関の機能分化や業務、連携推進など、医師/医療従事者の長時間労働を改善する施策に取り組む
- 看護師や薬剤師などコ・メディカルが、能動的に活躍できるための制度・仕組みを整える（※1）
- 働く人が日中受診できる柔軟な働き方を進める
  - ・フレックスタイム制や休暇取得などの指標を企業が公表する仕組みを推進する
  - ・企業独自の休暇制度を構築例により普及させる
- 行政提出書類の簡素化/簡略化に取り組む

**民間企業のアクションの例**

- 従業員の健康を守ることを経営の柱とする
- 柔軟な働き方に関する指標を健康経営に生かす
- 業務の属人化を止め、仕事を皆でシェアする
  - ・それによりテレワークや休暇取得がしやすくなる
- 体調が悪い時は、休みをとって自宅休養できるようにする
- インフルエンザなどの診断書を強制しない
- AIを活用した相談アプリの開発を進める
- ユーザーフレンドリーな「医療情報サイト」の構築を進める


※1 海外国においても、医師職に「遠隔診療対象」の中で、米国等では「フィジシャン・アシスタント」（外科手術の助手や研修管理等を担当）が創設、拡大されてきた。また、医師の指示を受けずに一定レベルの診断や治療などを行うことができる、医師と看護師の中間職と位置付けられる「ナース・プラクティショナー」という上級の看護師も存在する。また、米国では、プライマリケアの範囲で診断所書確保（プラクティス・ナース）により、予診や状態の安定した慢性疾患患者等に対する診断、検査、処方、リハビリなどの対応等が可能となっている。

7

上手な医療のかり方を広めるための懇談会 参考資料より  一般社団法人 知ろう小児医療守ろう子ども達の会

**ご清聴ありがとうございました**

必要なひとが必要な時に  
必要な医療を受けられるように・・・

 一般社団法人 知ろう小児医療守ろう子ども達の会